過去24年間の頭頸部領域脂肪腫30症例の臨床統計的観察

辻野元博・由井俊平・墨 哲郎・森 悦秀
中澤光博・松本 憲・菅原利夫・作田正義

Clinical and statistical observation on lipoma of the oral cavity and neck in our department during past 24 years

Motohiro TSUJINO・Shunpei YUI・Tetsurou SUMI・Yoshihide MORI
Mitsuhiro NAKAZAWA・Ken MATSUMOTO・Toshio SUGAHARA・Masayoshi SAKUDA

Abstract: Lipoma is a benign tumor derived from nonepithelial origin and may occur almost anywhere on the body. In the oral cavity, however, lipoma is a relatively rare tumor.

In this report, 30 cases of lipomas treated in our department during past 24 years are reviewed.

1) The incidence of lipoma in our department is 4.1% of all benign tumor. Salivary gland tumors and epulis are excluded in this report.

2) 16 patients were male and 14 female.

3) Age ranged from 47-day-old baby to an 82-year-old man; mean age was 47.9 years.

4) 11 cases were in the buccal mucosa, 4 in the mucogingival junction, 3 in the retro-molar pad, 3 in the tongue, etc.

5) Tumor size ranged from 5×5 mm to 50×50×40 mm in the oral cavity, and from 25×25 mm to 80×50 mm out of the oral cavity.

6) 24 tumors were histologically diagnosed as lipoma, 5 as fibrolipoma, and 1 as angiomyolipoma.

Key words: lipoma (脂肪腫), head and neck region (頭頸部領域), statistical study (統計的観察)

的に検討を加え報告する。

緒 言

脂肪腫は腫瘍実質細胞が脂肪組織よりなる良性腫瘍で、主として皮下組織に発生し口腔領域では他の非歯源性腫瘍に比べてその発生頻度は低く、比較的まれであるとされている¹⁻³⁾。今回、われわれは過去24年間に経験した脂肪腫30例について集計を行い、臨床的および文献

対 象 症 例

対象症例は昭和39年(1964年)から昭和62年(1987年)までの24年間に当科を受診し腫瘍摘出を受け病理組織学的検索により、脂肪腫と診断された30例である。診断名は、H-E染色および一部特殊染色を施した組織標本を検討して確定したものである。

結 果

過去24年間に脂肪腫と診断されたものは、表1に示すように30例であった。この間に当科における唾液腺腫瘍およびエプーリスを除き、病理組織学的に良性腫瘍と診

大阪大学歯学部口腔外科学第2講座

(主任：作田正義教授)

The Second Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University Faculty of Dentistry
(Chief: Prof. Masayoshi SAKUDA)

受付日：昭和63年12月26日

表 1 当科で過去24年間に経過した脂肪腫30例

症例	年齢	性別	部 位	大きさ	病理組織診断	病悩期間
1	51	♀	頬 粘 膜	小 豆 大	脂 肪 腫	2 週
2	55	♀	頬 粘 膜	小指頭大	脂 肪 腫	1 年
3	4	♂	頬 粘 膜	50×50×40 mm	脂 肪 腫	3.5年
4	1.2	♀	舌	小 豆 大	線維脂肪腫	2 か月
5	55	♂	歯肉頬移行部	10×10 mm	脂 肪 腫	7 か月
6	59	♂	頬 粘 膜	鳩 卵 大	線維脂肪腫	不明
7	0.1	♂	上顎歯肉	9×5×3 mm	脂 肪 腫	1.5か月
8	67	♀	下顎後臼歯部	小 豆 大	脂 肪 腫	1 年
9	33	♀	舌	10×8 mm	脂 肪 腫	5 年
10	26	♂	歯肉頬移行部	10×10 mm	脂 肪 腫	2 か月
11	82	♂	頬 粘 膜	42×30×22 mm	脂 肪 腫	15年
12	52	♂	頬 粘 膜	15×15 mm	脂 肪 腫	7 年
13	2	♂	頬 粘 膜	32×32×8 mm	線維脂肪腫	1 週
14	52	♂	歯肉頬移行部	20×20 mm	脂 肪 腫	5 年
15	56	♀	下顎後臼歯部	8×8 mm	脂 肪 腫	不明
16	65	♀	頬 粘 膜	30×30 mm	脂 肪 腫	40年
17	33	♀	頬 粘 膜	45×40 mm	脂 肪 腫	4 か月
18	37	♂	軟口蓋	15×15 mm	脂 肪 腫	3 年
19	57	♀	口 底	45×30 mm	脂 肪 腫	7 年
20	72	♀	下顎後臼歯部	10×10 mm	線維脂肪腫	2 年
21	42	♂	顎 下 部	80×50 mm	脂 肪 腫	2.5年
22	72	♂	歯肉頬移行部	30×30 mm	脂 肪 腫	1 か月
23	57	♀	オトガイ下部	小指頭大	脂 肪 腫	8 年
24	44	♂	硬口蓋	5×5 mm	血管筋脂肪腫	2 か月
25	66	♀	舌	7×7 mm	脂 肪 腫	25年
26	57	♂	頬 粘 膜	8×8 mm	脂 肪 腫	1 か月
27	54	♀	上 頸 部	25×25 mm	脂 肪 腫	8 か月
28	62	♂	頬 粘 膜	25×25 mm	脂 肪 腫	3.5年
29	61	♀	下 唇	10×10 mm	線維脂肪腫	3 年
30	63	♂	下 唇	8×8 mm	脂 肪 腫	1 か月

断されたものは735例で、そのうち脂肪腫の占める割合は4.1%であった。

発生年齢では、生後47日の乳児から82歳にわたり、年代別では50歳代が11例36.7%と最も多く、平均年齢は47.9歳であった。

性別では、男性16例、女性14例であった(図1)。

発生部位では、頬粘膜が11例36.7%を占め最も多く、ついで歯肉頬移行部4例、後臼歯部3例、舌3例、下唇2例、以下口底、軟口蓋、硬口蓋、歯肉が1例ずつ認められた。口腔外では、顎下部、オトガイ下部、頸部にそれぞれ1例認められた(表2)。

病悩期間については、1週間から最長40年までにわたっていた。

大きさについては、口腔内にできたものでは直径5

mm程度のものから最大50×50×40mmの頬粘膜にできたものまで種々の大きさを示していた。口腔外のもの、直径25mmのものから最大80×50mmのものがみられた。

病理組織型別では、表3のように脂肪腫24例、線維脂肪腫5例、血管筋脂肪腫1例であった。

考 察

脂肪腫は腫瘍の実質細胞が成熟した脂肪組織からなる非上皮性の良性腫瘍で、好発部位は皮下、特に頸部、肩甲部、背部、臀部、四肢伸側である。

全身に発生する良性腫瘍のうち脂肪腫の発現頻度はMacGregor⁴⁾によると4~5%、遠城寺ら⁵⁾による

図 1 脂肪腫30例の年齢、性別の分布

表 2 脂肪腫30例の部位、性別の分布

部 位	男	女	計	割合
頬粘膜	7	4	11	36.7%
歯肉頬移行部	4	0	4	13.3%
後臼歯部	0	3	3	10.0%
舌	0	3	3	10.0%
下唇	1	1	2	6.7%
口底	0	1	1	3.3%
軟口蓋	1	0	1	3.3%
硬口蓋	1	0	1	3.3%
歯肉	1	0	1	3.3%
顎下部	1	0	1	3.3%
オトガイ下部	0	1	1	3.3%
顎部	0	1	1	3.3%

表 3 脂肪腫30例の病理組織型別の分布

組織型	男	女	計
脂肪腫	13	11	24
線維脂肪腫	2	3	5
血管筋脂肪腫	1	0	1

と8,086例中19.8%, Fukuoka ら⁶⁾によると17.5% 報告されている。

一方、口腔領域に発現する良性腫瘍のうち脂肪腫の頻度は表4のように多くの報告があるがそのほとんどは2~5%前後^{8~12,14~17,20,21)} となっている。しかし、なかには7%台の高い割合の報告^{18,19)} もみられる。これは、森ら²²⁾も述べているように、良性腫瘍のなかに唾液腺腫瘍を含んでいるもの、歯原性腫瘍を除外しているものなど、さまざまであり母数にあたる良性腫瘍の範囲の設定の相違が脂肪腫の発生率のばらつきを大きくしていると考えるのが妥当であろう。

いずれにしても、石川ら²³⁾の記載にみられるように口腔領域における脂肪腫の発現はさほどまれとはいえないようである。

自験例では、唾液腺腫瘍およびエプーリスを除き、歯原性腫瘍を含めて母集団を設定した場合 735 例中30例で4.1%であった。また、真の腫瘍とはいえない irritation fibroma を除いて母集団を設定すると 492 例中の6.1%となった(表4)。

発生年齢については、諸家の報告は40歳以上で多発という意見で一致している^{4,24~27)}。杉本ら²¹⁾は本邦において顎口腔領域から報告された脂肪腫 220 例を集計し、60歳代に23.2%と最も多発し、以下50歳代20.9%、30歳代40歳代がそれぞれ13.6%で、平均年齢は48.6歳であったとしている。

自験例では、図1のように50歳代が11例、36.7%と最も多く、以下60歳代6例、20%、10歳以下4例、13.3%、平均年齢47.9歳となり諸家の報告とはほぼ一致した結果が得られたが、10歳以下に若干多くの症例が認められた。

性別では、脂肪腫全体としては男性に多いとするも

表 4 文献中にみられた口腔内良性腫瘍中に占める脂肪腫の割合

報告者 (報告年)	脂肪腫数	良性腫瘍総数	割合(%)
Bertelli ⁷⁾ (1965)	6	633	0.95
Wehrle ⁸⁾ (1965)	4	180	2.2
Visscher ⁹⁾ (1982)	19	792	2.4
久野ら ¹⁰⁾ (1978)	5	204	2.5
岡野ら ¹¹⁾ (1979)	10	666	1.5
田中ら ¹²⁾ (1980)	8	338	2.4
八重垣ら ¹³⁾ (1980)	4	764	0.5
鶴野ら ¹⁴⁾ (1981)	9	728	1.2
千葉ら ¹⁵⁾ (1982)	13	585	2.2
伊地知ら ¹⁶⁾ (1982)	2	45	4.4
伊藤ら ¹⁷⁾ (1982)	3	72	4.2
三上ら ¹⁸⁾ (1984)	4	52	7.7
吉嶺ら ¹⁹⁾ (1985)	3	57	7.7
柴田ら ²⁰⁾ (1986)	2	115	1.7
杉本ら ²¹⁾ (1988)	3	120	2.5
自験例	30	735	4.1
		(492)	6.1)

() は irritation fibroma を除いた場合

の^{9),12,24,25,27)}が多いが、一方では女性に多いとするもの^{26,28-30)}や、性差をみないとするもの^{31),32)}などの報告がみられ特定の傾向はみられないようである。むしろ、脂肪腫全体としてみた場合、性別による著差はないと考えるべきであろう。自験例では、男性16例、女性14例であった。

発生部位については、表5のようにおおむね頬粘膜が最も多く30~50%、ついで舌、口底がそれぞれ10~20%、以下顎下部、歯肉頬移行部、口唇、歯肉、口蓋、などに多いという傾向で一致するようである。自験例では、表2に示すように頬粘膜に最も多かったが、他の部位は以上の報告とは必ずしも一致しなかった。

一方、発生部位と性別との関係をみた報告は多くはないが、Visscher⁹⁾、Rapidis²⁵⁾や森ら²²⁾によると口底および後臼歯部の脂肪腫は女性に多く、その他の部位では男女同数であるという。自験例では、表2のように頬粘膜および歯肉頬移行部に発生したものは男性に多く、後臼歯部および舌では女性に多い傾向がみられた。しかし、その意義については不明で今後の検討が必要と考えられる。

大きさについては、種々の大きさのものが報告されているが、杉本ら²¹⁾の集計によると2.0~3.0 cmの範囲のものが最も多く27.1%を占めていたとしている。本邦における口腔外科領域での最大の脂肪腫はわれわれの渉猟し得た範囲では奥村ら³⁴⁾の顎下部に発生した

表 5 文献中にみられた脂肪腫の部位別発生頻度

報告者 (年度)	頬部	舌	口底	口唇
MacGregor ⁴⁾ (1966)	42.1%	19.3%	14.0%	10.5%
Hatziotis ²⁴⁾ (1971)	32.2%	19.6%	14.7%	6.3%
刀根ら ²⁶⁾ (1985)	37.0%	17.0%	10.0%	3.8%
村上ら ³³⁾ (1985)	42.9%	14.3%	7.1%	7.1%
鈴木ら ²⁷⁾ (1987)	33.3%	15.2%	6.1%	15.2%

80×130×20 mm、240 g のものが報告されている。
自験例においては、口腔内にできたものでは直径5 mm程度のものから最大50×50×40 mmの4歳男児の頬粘膜にできたものまで種々の大きさを示していた。口腔外のものでは直径25 mmのものから最大80×50 mmのものがみられ、口腔内に発生したものよりやや大きい傾向をうかがわせた。

病恟期間については、本腫瘍が良性でその発育が比較的緩慢なため長い病恟期間を示す報告が多い。自験例では、1年以内が14例と約半数を示したが、5年以上10年未満が4例、10年以上が3例、最長40年となっており、本腫瘍のきわめて緩慢な増殖をうかがわせる。

脂肪腫の病理組織像については、基質および腫瘍細胞の性状により単純性脂肪腫、線維脂肪腫、血管脂肪腫、血管筋脂肪腫、化骨性脂肪腫、粘液脂肪腫、紡錘細胞脂肪腫、多形性脂肪腫、筋肉内脂肪腫などに分類されている³⁵⁾。多くは単純性脂肪腫あるいは線維脂肪腫のようである。自験例では、単純性脂肪腫24例、線維脂肪腫5例に加えて血管筋脂肪腫1例がみられた。この血管筋脂肪腫は、44歳男性の硬口蓋に発生したもので粘膜下に内皮細胞で裏層された拡張した血管腔および平滑筋細胞を伴っているのが認められた。

脂肪腫の発生機序については、一般的には組織異所発生説、正常組織の過形成説などが報告されている。その成因としては、外傷、慢性の刺激、内分泌異常、脂肪代謝異常などがあげられているが、他の腫瘍と同様、推察の域を出ず、いまだ不明である。

治療法としては、外科的に腫瘍を全摘出するのが一般的である。全摘出した場合、再発は認められないのが通常である。

結 語

昭和39年(1964年)から昭和62年(1987年)までの24年間に当科を受診した脂肪腫症例30例について臨床的および文献的に検討を加え報告した。

本論文の要旨の一部は、第15回日本口腔外科学会近畿地方会(昭和62年12月、大阪市)において発表した。

引用文献

- 1) Gorlin, R.J. and Goldman, H.M.: Thoma's Oral Pathology II. 6th Ed. Mosby Co, St Louis, 1970, p 880-881.
- 2) Geschickter, C.F.: Lipoid tumors. Amer J Cancer 21: 617-641 1934.
- 3) Simpson, H.E.: Lipoma of oral cavity. Oral Surg 12: 349-352 1959.
- 4) MacGregor, A.J. and Dyson, D.P.: Oral lipoma, A review of the literature and report of twelve new cases. Oral Surg 21: 770-777 1966.
- 5) 遠城寺宗知, 岩崎 宏, 他: わが国における良性軟部組織腫瘍—8,086例の統計的観察— 癌臨 20: 594-609 1974.
- 6) Fukuoka, Y., Kawahara, Y., et al.: Clinico-pathological study of soft tissue tumors. J Lpn Orthop Assoc 53: 85-104 1979.
- 7) Bertelli, A.P.: Uncommon tumors of the tongue (lipoma and leiomyofibroma). Report of two cases. Oral Surg 19: 771-775 1965.
- 8) Wehrle, D.P., Emmings, F.G., et al.: Lipoma of the oral cavity. Report of four cases. Oral Surg 20: 138-140 1965.
- 9) Visscher, J.G.A.M.: Lipomas and fibrolipomas of the oral cavity. J Max-fac Surg 10: 177-181 1982.
- 10) 久野吉雄, 佐藤田鶴子, 他: 頬粘膜に発生した脂肪腫の1症例について. 歯学 67: 388-392 1978.
- 11) 岡野昌治, 成瀬 健, 他: 若年者の頬部に見られた粘液脂肪腫の1例. 日口外誌 25: 649-652 1979.
- 12) 田中大順, 山本悦秀, 他: 口腔領域に発生した脂肪腫8例の臨床的観察. 日口外誌 26: 1068-1073 1980.
- 13) 八重垣健, 亀山忠光, 他: 舌に見られた脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 1563-1567 1980.
- 14) 鶴野一洋, 堂原義美, 他: 軟口蓋鼻咽腔部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 27: 1052-1055 1981.
- 15) 千葉博茂, 葛井 正, 他: オトガイ下部に発生した脂肪腫の1例. 口科誌 31: 102-107 1982.
- 16) 伊知地明, 山岡 稔, 他: 口腔内に発生した脂肪腫の2症例. 松本歯学 8: 114-120 1982.
- 17) 伊藤信明, 岡村 悟, 他: 乳児の頬部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 28: 739-744 1982.
- 18) 三上八郎, 木脇雅子, 他: 脂肪腫の4例. (抄) 口科誌 33: 645 1984.
- 19) 吉嶺真一郎, 大枝直樹, 他: 脂肪腫の4例. 口科誌 34: 202-206 1985.
- 20) 柴田隆夫, 水野明夫, 他: 口腔外科領域の軟組織良性腫瘍の臨床統計的検討. 口科誌 35: 164-170 1986.
- 21) 杉本忠雄, 田辺昭博, 他: 下唇に発生した脂肪腫の1症例. 日口外誌 34: 167-174 1988.
- 22) 森 悦秀, 加納康行, 他: 口腔底に発生した脂肪腫の1症例と文献的考察. 日口外誌 31: 585-590 1985.
- 23) 石川梧朗, 秋吉正豊, 他: 口腔病理学Ⅱ, 改訂版, 永末書店, 京都, 1982, 570-572.
- 24) Hatziotis, J. Ch.: Lipoma of the oral cavity. Oral Surg 31: 511-524 1971.
- 25) Rapidis, A.D.: Lipoma of the oral cavity. Int J Oral Surg 11: 30-35 1982.
- 26) 刀根 功, 松田耕策, 他: 下唇に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 31: 2816-2820 1985.
- 27) 鈴木三郎, 塩入重彰, 他: 頸部に発生した脂肪腫の1症例と臨床統計的観察. 日口外誌 33: 1252-1257 1987.
- 28) 倉地洋一, 紀村 享, 他: 下口唇に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 209-214 1980.
- 29) Bruce, K.W. and Royer, R.Q.: Lipoma of oral cavity. Report of three cases. Oral Surg 7: 930-938 1954.
- 30) Panders, A.K. and Scherpenisse, L.A.: Oral lipoma. Br J Oral Surg 5: 33-41 1967.
- 31) 梶山 稔, 古賀久保, 他: 脂肪腫の2例. 九州歯会誌 21: 34-41 1967.
- 32) 久野吉雄, 内山敏子, 他: 歯肉に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 19: 651-654 1973.
- 33) 村上有二, 西方 聡, 他: 脂肪腫14症例についての臨床的, 病理組織学的検討(抄). 口科誌 34: 874-875 1985.
- 34) 奥村康明, 安岡 忠, 他: 嚢胞性リンパ管腫を疑った小児頭大の脂肪腫の1例. 日口外誌 33: 1628-1633 1987.
- 35) Enzinger, F.M. and Weiss, S.W.: Soft tissue tumors. 2nd Ed. Mosby Co, St Louis, 1988, p 301-345.